

令和7年度 諫早東特別支援学校 学校評価結果

令和7年度 長崎県立諫早東特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

※()は昨年との比較

番号	評価内容	平均
1 教育活動		3.8(±0)
1	教育目標は児童生徒の教育ニーズや保護者の願い等を適切に盛り込んでいる。	3.7(±0)
2	教育目標に基づいた児童生徒の成長を促す教育実践が適切に行われている。	3.7(+0.1)
3	明るく活気のある学校作りを行っている。	3.8(-0.1)
4	「個別の教育支援計画」などにより保護者と連携しながら教育活動に取り組んでいる。	3.8(+0.1)
5	児童生徒が主体的に活動しようとする授業や学校行事を行っている。	3.8(+0.1)
6	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.7(-0.1)
7	ICT 機器活用など教材教具の工夫により、一人一人に分かりやすい授業を行っている。	3.9(±0)
8	児童生徒に寄り添った指導・支援をしたり、相談を受けたりしている。	3.9(+0.1)
9	児童生徒の人権を尊重した取組を行っている。	3.8(±0)
10	いじめの防止や早期発見に努め、学校全体で組織的に対応している。	3.7(-0.2)
11	自分で将来の生き方を選択する能力や態度を育てるキャリア教育に適切に取り組んでいる。	3.7(-0.1)
12	児童生徒や保護者に対して進路に関する情報を提供している。	3.7(-0.1)
13	防災教育や事故防止など安全に対する意識が高まる指導を行っている。	3.8(+0.1)
2 教育環境		3.9(+0.1)
14	校舎内外の施設の整備や清掃、美化に努めている。	3.9(+0.2)
15	安全点検や危険個所の補修などを行い、安全な環境作りを行っている。	3.9(+0.1)
3 開かれた学校		3.8(+0.1)
16	ホームページを適宜更新し、教育活動や学校生活を情報発信している。	3.8(+0.2)
17	地域の方や地域の学校と情報共有しながら、交流学习を行っている。	3.7(+0.1)
18	学校行事、育友会活動、学校公開など保護者や地域の方が参加しやすいように実施している。	3.8(±0)

令和7年度 長崎県立諫早東特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

※()は昨年との比較

番号	評価内容	平均
1 教育活動		3.8 (±0)
1	教育目標は児童生徒の教育ニーズや保護者の願い等を適切に盛り込んでいる。	3.9(+0.2)
2	教育目標に基づいた児童生徒の成長を促す教育実践が適切に行われている。	3.9(+0.1)
3	明るく活気のある学校作りを行っている。	3.9(+0.2)
4	「個別の教育支援計画」などにより保護者と連携しながら教育活動に取り組んでいる。	3.8(±0)
5	児童生徒が主体的に活動しようとする授業や学校行事を行っている。	3.9(+0.2)
6	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.8(+0.2)
7	ICT 機器活用など教材教具の工夫により、一人一人に分かりやすい授業を行っている。	3.8(+0.1)
8	児童生徒に寄り添った指導・支援をしたり、相談を受けたりしている。	3.9(+0.1)
9	児童生徒の人権を尊重した取組を行っている。	3.9(±0)
10	いじめの防止や早期発見に努め、学校全体で組織的に対応している。	3.8(+0.1)
11	自分で将来の生き方を選択する能力や態度を育てるキャリア教育に適切に取り組んでいる。	3.8(+0.3)
12	児童生徒や保護者に対して進路に関する情報を提供している。	3.9(+0.3)
13	防災教育や事故防止など安全に対する意識が高まる指導を行っている。	3.8(±0)
2 教育環境		3.9(+0.1)
14	校舎内外の施設の整備や清掃、美化に努めている。	3.9(+0.2)
15	安全な環境作り(危険個所の補修など)を行っている。	3.9(+0.1)
3 開かれた学校		3.8(+0.2)
16	ホームページを適宜更新し、教育活動や学校生活を情報発信している。	3.7(+0.1)
17	地域の方や地域の学校と情報共有しながら、交流学习を行っている。	3.7(+0.2)
18	学校行事、育友会活動、学校公開など保護者や地域の方が参加しやすいように実施している。	3.8(+0.1)

I 結果と改善策について

(1) 教職員アンケートの結果について(資料3)

- 回答数は27/27で、回答率100%に達した。(病気休暇、介護休暇、取得者2名は対象から除く)
- 各項目の評価が4「十分達成している(よくあてはまる)」もしくは、3「おおむね達成している(ややあてはまる)」の回答がほとんどで、平均値が2.5ポイントを下回らず各下位項目についても3.7~3.9ポイントとなっていた。また、3項目の平均値は「教育活動」…3.8ポイント、「教育環境」…3.9ポイント、「開かれた学校」…3.8ポイントと高い評価であった。
- 自由記述については、全体的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断される意見はなかった。
- 昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目はなかった。

(2) 保護者アンケートの結果について(資料4)

- 回答数は15/16で、回答率は94%だった。(アンケート前後の転入者3名は対象から除く)
- 各項目の評価が4「十分達成している(よくあてはまる)」もしくは3「おおむね達成している(ややあてはまる)」の回答がほとんどで、平均値が2.5ポイントを下回らず各下位項目についても3.5~3.9ポイントとなっていた。また、3項目の平均値は「教育活動」…3.8ポイント、「教育環境」…3.9ポイント、「開かれた学校」…3.8ポイントと高い評価であった。
- 自由記述の内容より、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の1点であった。

★教育活動についての意見として、学校外での学習(日光を浴びたり、外気に触れたりする機会を多くしてほしい)という御意見。

このことについて、以下のように改善を図る。

日光を浴びることで、セロトニンの分泌が促進され、精神の安定やストレス軽減に繋がるとともに、免疫力向上にも効果的であり、概日リズムを調整する作用もあるといわれている。本校児童生徒にとって、睡眠のリズム、生活リズムを整えていくためにも、日光を浴びホルモンの分泌をよくしていくことは、大切なことである。可能な限り日光に浴びることができるよう、センターと連携し徒歩での登校が可能な生徒については、センターから歩いて登校したり、校外学習や学校行事である歓迎遠足等は校外で実施したりしている。

しかし、施設設備面で、本校には運動場がなく体育の授業のほとんどはプレイルームで学習しているのが現状である。また、手術後のリハビリを行っている児童生徒も在籍するため、実態は様々である。今後、できる限り、子供たちの健康状態も留意しながら、外気や日光に当たるような教育活動や活動機会にも配慮していきたい。

(3) 教職員アンケートと保護者アンケートの結果の比較について

- 教職員と保護者の下位項目の平均値の差は0.1~0.2ポイントで、ほとんど評価の平均値に差はなかった。しかし、教職員と保護者の意識に差がある項目は、多少あると思われる。例えば、教育活動の下位項目12「児童生徒や保護者に対して進路に関する情報を提供している」の評価結果が教職員は3.7ポイント(前年度より-0.1ポイント)、保護者は3.9ポイント(前年度より+0.3ポイント)と全体でみると0.2ポイント教職員が下回っている。いずれも平均値は高い数値ではあるが、教職員から分析すると、特に中学部3年生については、9名全員が高等学校に進学希望で、県内各地から本校に転入してきているため、受験校についても全日制高校(公立・私立)、通信制高校、定時制高校など多岐にわたって情報を収集し提示する必要があった。教職員は、進路指導を進めていくうえで、個々の学習面における客観的視点を持ち、通学手段や通学距離、実態や病気の状態等に応じた進路を担当、進路指導主事、部主事等と話し合いながら進めてきたが、受験を前に精神的に不安定になる生徒もいて、もっとできることがあったのではないかと、葛藤もあったと思う。年々、進路指導の難しさを実感しているのが現状である。また、そのような実態もあるため、昨年度より0.2ポイント下がった3.7ポイントとなったのではないかと考える。

一方で保護者の評価結果を見ると3.9といった高い数値より、児童生徒保護者、担当主治医と連携を図りながら生徒や保護者に寄り添った進路指導を進めてきたことが保護者からの高い評価として現れたのではないかと考えられる。また下位項目11の「自分で将来の生き方を選択する能力や態度を育てるキャリア教育に適切に取り組んでいる。」といった項目も3.8と高かったこともあり、外部講師を呼んだ進路学習会も保護者に案内し参加していただいたり、外部講師を呼びキャリアデイ等で取り組んだことをホームページ等で紹介したりしたことも高評価につながったと考える。今後も、進路指導の反省を生かしながら、キャリア教育を進め、よりよい進路指導につなげていきたい。

このように、大きな平均値の差がなくても、支援する教職員側と保護者の受け止め方には異なる面もある。保護者からの高評価に甘んずることなく、子供に寄り添い、指導支援していきたい。

2 学校関係者による評価について

※令和8年2月26日(木)に開催した学校評議委員会で出された意見。

- 児童生徒数がけっして多いわけではない学校において学校評価を数値化する場合、母数が少ないと一人二人でも低い評価をつけると、平均値もかなり下がっていくと思う。そのような状況下でアンケート評価については、教職員、保護者共にどの項目についても高い数値で素晴らしいと思った。これも先生方の熱心な御指導のたまものであると感じた。
- 県内各地から転入してきているため、中学部3年生の高等学校受験については、進路指導が多岐にわたり業務が多忙になるのではないかと。各高等学校の学校説明会に出席する必要もあり、リモートでの参加等できないものなのか。業務削減の視点をもつことも大切であると思う。しかし、進路指導について保護者の評価は高い数値であるため、先生方の熱心かつ丁寧な進路指導が行われている成果だと思う。今後も生徒、保護者に寄り添った進路指導を続けてほしいと思う。
- 小学部にも、病弱対象児童が増えてきている現状を知り、びっくりした。しかし、中学校から転入してくる生徒も小学校の頃からこども医療福祉センターに受診し、学校に通うことが難しい者もいる。早い段階から入院治療し、学校に通学することで学習空白も補っていくこともでき、いいことではないかと思う。また、本校では、自分もできるという気持を一人一人の実態に合わせて育ててもらっている。悩みがあっても先生方がしっかりと受け止め、寄り添い理解してくれる。そのような指導支援を小学部の段階から受けることができることも、ありがたいと思う。
- 諫早市では、フリースクールの立ち上げが近年、とても多くなっている。不登校になっている子供たちの現状を先生方も見て知ることも大切ではないかと思う。

3 総括

- 各部や各分掌部の自己評価については、全体的に見て数値が「2」以下の項目はなく、すべてにおいて3~4の評価だったが、細かく見ていくと、改善していくことで、より良い効果が見られるような課題もあるため、今年度実施したことを次年度につなげていくことができるよう検討していきたい。
- 保護者アンケートから教育活動の下位項目である「主体的に活動しようとする授業や学校行事を行っている」「児童生徒に寄り添った指導・支援をしたり相談を受けたりしている」「児童生徒の人権を尊重した取組を行っている」といった項目が平均3.9ポイントと高い評価となっている。保護者の方々より、このような評価結果をいただき、とてもありがたいと思う。この評価結果に甘んじることなく、今後も児童生徒のために、より個々の専門性を向上させ、子供たちの人権を尊重するとともに、児童生徒に寄り添い傾聴する態度をもち、一人一人の実態や状態に配慮した指導支援を学校一丸となり取り組んでいきたい。
- 「教育環境」については教職員、保護者とも3.9と高い評価となった。定期的に安全点検を実施するとともに不具合が出たところは早急に対応できた。また、冷暖房の改築工事など教育環境の充実に向け事務局を中心に計画的に実施していただいていることも高い評価結果につながったと考える。今後も安心安全な教育環

境を整えるよう努力していきたい。

- 「開かれた学校」については、教職員、保護者とも昨年度から0.1～0.2ポイント増加し、ともに3.8ポイントの高評価であった。教職員側も行事や学習ごとにホームページを適宜更新し、教育活動や学校生活を情報発信していると感じているし、保護者に対しても安心安全メールで連絡を送信する際にホームページを見るような案内を併せて送信している効果が表れていると思われる。また、「地域の方や地域の学校と情報共有しながら、交流学习を行っている。」とあるが、諫早ライオンズクラブ交流では、案内を出したところ保護者の方々も参加しボッチャを地域のライオンズクラブの方々と共に実施できたのは、よかったと思う。今後、より開かれた学校を目指していくうえでも、ホームページだけでなく外部講師を召集した学習やライオンズクラブ交流など学校独自の学習について新聞等に投げかけ、記事に取り上げていただくことも取り組んでいきたい。